

第17回 ちゅうでん教育振興助成（平成29年度）

報告書資料 支援 - 04

学校名・団体名	久慈市立久喜小学校
HPアドレス	http://www.city.kuji.iwate.jp/kuki_es/kuki_es.html
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	ふるさと久喜の未来を紡ぐ「なみのと学習」
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <p>本校では、平成9年に漁業の担い手育成を目的とした「海づくり少年団」が結成され、生活科や総合的な学習の時間を活用して地元久喜浜の清掃活動や磯の生物観察の他、定置網体験や名産物である「ウニ」の収穫・殻むきをはじめ「秋鮭」の加工などの特色ある教育活動が展開されている。これら一連の活動を通して、ふるさと久喜の海の豊かさや素晴らしさを学び、誇りをもって未来の久喜を創りあげる人材を育てていくことが「なみのと学習」である。「なみのと」とは「波の音」の意味であり、久喜地区がいつまでも波の音が響き渡る穏やかで豊かな土地であってほしいという願いが込められている。</p> <p>しかしながら、平成23年の東日本大震災津波による久喜地区も甚大な被害を受け、2年間にわたり「なみのと学習」も中断せざるを得なかった。子どもたちにとっては残念な時期であったが、その代償として中断している時期には、これまで当然のように取り組み、継続してきた「なみのと学習」の意義や意味を問い直す機会となった。子どもたちは、これまで行うことが当たり前と思っていた「なみのと学習」は、やはり豊かできれいな海があるからこそ行うことができる学習であることを再認識し、自分達ができる海の環境保全として「鉄炭団子」や「廃油石鹼」などの方法に取り組みながら、ふるさと久喜の復興・発展を支えようとする豊かな心情を育てている。</p>	

ふるさと久喜の未来を紡ぐ「なみのと学習」の展開

1 「なみのと学習」の特色

- 「なみのと学習」にちなみ、4つの活動指針を以下のように定めている。
- ① ぜだろう（疑問・気づき・課題設定）
- ② つけよう（発見・問題解決・追究）
- ③ のびのびと（主体的な学習態度）
- ④ びだそう（実践力・学び方）

学年	3年生	4年生	5年生	6年生
時数	70時間	70時間	70時間	70時間
単元1	久喜浜お魚ランド	めざせウニ博士	漁業トレジャーハンター&ハンター	廃油石鹼PRプロジェクト発進
単元2	漁師さんのお仕事ハッケン伝	鉄炭団子わくわく大作戦開始	廃油石鹼クリーン丸久喜湾に出航	サーモンリサーチ隊出動

2 活動の具体

(1) 磯観察・クリーン活動



磯観察とクリーン活動は、磯場から大きく潮が引く「大潮の日」である6月28日（月）に実施した。平成9年に「海づくり少年団」が結成されて以来、約20年間継続している活動である。年々ごみの量が減っていると感じるのは、子どもたちの清掃活動が地域にも浸透しているためと考えている。

ごみ拾いの後には「磯観察」を行った。磯場に生息している様々な生き物を採取して、図鑑で名前を調べたり、形や特徴をスケッチしたり、「もぐらびあ水族館」の職員から生態や特徴などを教えていただくなどして学習を深めた。また、生物の観察だけではなく、県北広域振興局の協力のもと地区の特産物である「稚ウニ」の放流も行い、郷土の豊かな海を実感することができた。

(2) 漁業体験



「なみのと学習」のメイン活動である漁業体験は7月22日（土）に実施した。4・5年生は小型船に乗って「ウニ獲り」、6年生は漁船に乗って定置網漁を体験した。定置網では、サバやマンボウ、ワラサなどたくさんの種類の魚が獲れ久喜の海の豊かさを実感できた。また、「ウニ獲り」では、小型船の操舵方法も体験させてもらったり、船に掲げている「ぼんでん旗」の種類や使い方などを教えていただいたりした。

その後、ウニの殻むき作業を行い、市内の料理研究家の方に指導していただきながら調理したウニや魚の刺身や焼き魚などをお世話いただいた漁協の方々や保護者、子どもたち全員で味わった。

(3) 魚の解剖体験

4・5年生は、サバやアジなどの丸く長い魚とヒラメやカレイなど平べったい魚の構造の違いに興味を抱いたことをきっかけに、魚の解剖をしてその秘密を探る学習を行った。

解剖に使う魚は久喜地区の方から様々な種類を人数分寄付していただいた。講師には岩手県から水産課の技師の方を招いて、専門的な見地から内臓の名前やつくりなど、魚の種類に応じてその働きや特徴などを説明してもらいながら、自分たちでも実際に解剖を行った。11月に行う「新巻鮭づくりに発展する貴重な体験となった。



(4) 新巻鮭・イクラづくり体験

久喜漁港の秋から冬にかけて大きな水揚げ量を占める秋鮭の加工方法を体験することで、地元の漁家の作業内容や思い・願いについて学びを深めている。

作業の前に、地元の漁業組合の方から東日本大震災津波の影響で回遊から戻る鮭の漁が減少していること、今期は特に鮭の漁獲量が減ってきている現状を教えていただき、貴重な魚であることや久喜にとって大事な魚であることを実感していた。

漁業女性部の協力のもと、一人一尾の鮭の内臓を取り出し、塩漬けにする加工を行った。その後、1週間ほど塩に馴染ませ、水洗いをして、さらに1週間昇降口に吊るし風に当てて身を引き締めた。

冬の保存食として地域で長く食べられてきた新巻鮭の加工を通して、地元で獲れる魚に対する漁師さんの思いを肌で感じていた。



(5) 防災教育学習会

昨年度に引き続き、6月6日(火)に小袖小学校と合同で、久喜浜に建設されている防潮堤や野田村の震災復興事業の取組の様子を見学する防災教育学習会を行った。

久喜浜防潮堤では水門の開閉体験をし、野田村では防潮堤～国道45号線～都市公園は、津波被害から村を守る3堤構造になっていることなどを学んだ。工事担当者からは、「どんなに防潮堤が立派でも、完全に津波を防ぐことはできないことを肝に銘じ、過信することなく『自分の命は自分で守る』ことを忘れないでほしい。」と貴重なメッセージをいただいた。



(6) 海洋研究出前講座

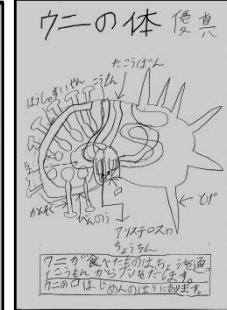
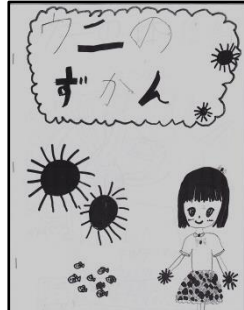
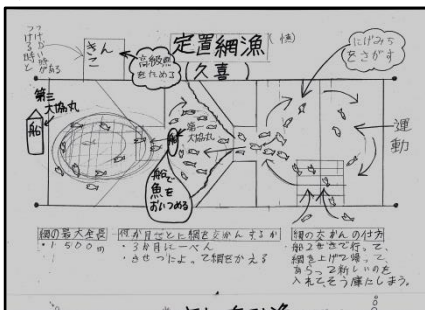
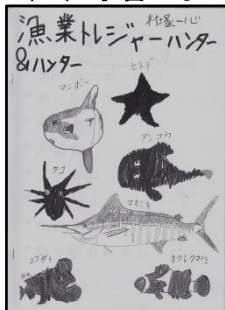


1月30日(火)に、東京大学大気海洋研究所センター長の河村知彦教授をお招きして、「海洋研究出前講座」を開催した。

この講座では、東日本大震災が三陸の海洋生物へもたらした影響について、専門であるウニ・アワビの生態観察をもとに、子ども達に分かりやすく講義していただいた。

その中では、大型海藻群の中で生息していた大人のアワビは津波が来ても沖合に流されることはなかったが、岩場に生息していたアワビの稚貝は流されてしまったために、一時的にアワビの数が減少傾向にあることなどを教えていただいた。

(7) 学習のまとめ



子ども達は今年度「なみのと学習」で学んできたことを一人一人冊子やパンフレットにまとめ、地域や他校に向けて発信した。

おわりに

平成9年に宮古市で行われた「全国豊かな海づくり大会」の開催を機に、本校に「海づくり少年団」が結成された。また、平成12年に総合的な学習の時間が創設されたことを受け、地元の海について理解を進める「なみのと学習」が編成された。以来、「海づくり少年団」活動は約20年間、「なみのと学習」は約17年間にわたり、ふるさと久喜の海の豊かさや基幹産業の漁業について学習を深めてきた。

児童数の減少により、以前のような幅広い活動は制限されてきているが、子ども達のために必要な活動を精選して、今後も「ふるさと久喜の未来を紡ぐ『なみのと学習』」の充実に努めていきたい。